

# 佛教福祉施設従事者の日々

“其の試行錯誤と願望”

神 谷 常 俊

(社会福祉法人光輝会理事長)

## はじめに

昨今は生活レベルは向上し、教育水準も高くなって参りまして、目を見張るばかりですが、せせこましい人が多く、教えんでも覚えるのが悪智慧で、全く淋しい限りです。私は此の福祉の道へ入りましてからを振り返って見ますと、「機縁醇熟(因縁和合)」の言葉の通り、自分の力ではなくして、有難い因縁を頂いて、させて頂いた、と云える程すべてが「おかげ様」であったと感謝しています。私は戦後寺院で出来る福祉に亦僧侶としても社会教育と迄はおこがましくは思いませんが、何とか社会的な寺院活動の一助との考えから発足致しました。

## 一、施設の歩み

昭和二十三年児童福祉法の里親として、三人の姉弟を頂き発足致しました。今はその為夫婦で寮長、保母として世話をさせて頂いています。昭和二十四年四月、養護施設の認可を受け本格的に寺を開放した福祉施設となりましたが、戦後と云う混沌とした時代で、経済的にも運営にも、年々悩み苦しみを重ねたり、指導力の未熟に幾多の困難がありました。地域社会は「寺と担信徒」と云う関係もあり、「大光明師」のよき指導協助者に恵まれ「佛祖恩光」の「おかげ」がありまして、順調に拡張されました。二十名から三十名、更に五十名と増員され、設備の充実に、子

供達と職員は希望を持って、一生懸命に頑張つて参りました。昭和三十年には、夏の行事として渥美半島の赤羽根海岸に、「海の家」を設営しました。白い砂浜へ出て見ますと、寄せては返す波を見て、大勢の子供達は面白がつて波と戯れ遊ぶのですが、気の弱い子や内向性の子供は怖がつて逃げます。けれどその様な子供でも暫く眺めて居ますと、子供には好奇心があり、闘争心、向上心があり、育つ力があるのです。怖がつて居た波に先ず一足浸します、引返して行く波に足を取られて驚きますが、すぐ立直つて今度は寄せて来る波に手を出して、ジャブジャブと波を分けます。続いて次は二歩三歩と前へ進みます。それこそ二歩前進一步後退が、三歩前進一步後退となり、段々前へ前へと進み、慣れて来て、あれ程怖がつていた波に闘争心をむき出しにして、全身水の中に入って、波に向つて打勝つて行き遊ぶ様になります。此の様に变化する状態を見て自然の環境には子供を養育するには欠かせない大事な教へられる事が多いと思ひました。殊に渥美半島の内陸部は、純農村地帯にて、気候は温暖、土地の人は、勤労意欲が高く、蒔いた種から芽が出て苗となり、植えた苗が育つて丈夫な立派な幹

となつて、美しい花が咲きすばらしい実が稔る。作物としての一生が、収穫迄わずか百日から半ケ年の日数の間にどんどん進み育つて行く自然の姿を、目で見耳で聞き身体でやつて見る事も出来るのです、海岸部は亦広大な海原を一望の下に洋々とした眺めです。又「うねり」と云われている波の流れは、風もなく静かな様ではあるけれど、これが段々に岸に近づいて来ると、予想以上に底力のある強い力の波である事に驚かされます。この静かそうで大きな「うねり」が磯に近づいて波頭が岸に打当たる時は、真白な濤シビキとなつて、散つて行きます。「千変万化」と云われる様に一波として同じではありません、ドドッと強い底力の地響ヒビキのある濤は、いつ迄見ても見飽きない程で御座居ます。幸いにも昭和三十二年二月、渥美郡の太平洋岸の小山の中腹で風光明媚で「氣宇宏大」な還境にも申し分のない「赤羽根町」に地元有志の協力を得て、「虚弱児施設赤羽根学園」を開園認可させて頂きました。身体の弱い子供も、精神的に弱い子供も、自然の厳しさを体得し、根性ある土地柄で、明るく、強く育っています。事実海辺育ちの方々には、日常生活の中に於て自然の厳しい条件の中に生き抜いて居ら

れ、雄々しく人生に立向って成功して行かれる方が多くあられます。次に昭和四十五年四月には、小さな施設ではありましたが、寺の近隣の子供達の「光輝保育園」の認可を受けました。

慈愛に満ち満ちた佛光を受け、明るい日常を送らして頂いています。此処寺の境内は、園児達ばかりでなく、毎日を送り迎えをして下さる両親や、お祖父ちゃん、お祖母ちゃん達にも、共に樹木もあり、空気のよい静かなお御堂のある自然の境内に足を運び、心ない人もみ佛に手を合せる機縁をお与え下さった事を悦んでいます。殊に幼児教育は「毎日が遊び」であり、その遊びの中で自然にすべてを「まねる」そうして覚えるのだと聞いています。一才から六才の春迄の園児です。昔から「三ツ児の魂百迄」の諺の一番大事な三才を中にして前後の子です。丈夫な身体、丈夫な心、「ジツカリ」やれば何でも出来。そして自分の事、自分の事、これを合い言葉のようにしています。其処に善悪の判断も自然に覚え、教へも躰けもあると思います。子供は親のやっている姿を見て覚えますが、殊に保育園では、大人よりも子供同志、お友達の方の手を見習って覚え一日

一日を育てて行くのです。私はこれを「チビッコ先生」と云っています。この保育方法を研究する様に光輝保育では実行しています。チビッコ先生同志がまねる、ならい合う学習です。

## 二、施設の生活

施設での日課で光輝会は、佛前のお祈りがあります。保育園だけは通園ですから日課計画は別ですが、二施設は毎朝、食事前に朝礼の意味を兼ね、佛様にお参りを致します。式の次第は次の通りです。

### 一、三唱三礼 三返念佛を唱へ座礼する

### 二、祈りの言葉

佛様、佛様の限らない生命（いのち）と光とによって、私達は幸福（しあわせ）に暮すことの出来ることを、有難く思います。どうか、まことの道にかなう、清く、強い、佛様の子として、いつまでも、守りと、導（みちびき）を与えて下さい。

### 三、十念 全員お念佛を十返唱える

### 四、佛の子供

一、われ等は、佛の子供なり

うれしい時も、悲しい時も

み親の袖に、すがりなん

二、われ等は、佛の子供なり、

幼い時も、老いたる時も

み親にかかわらず、仕えなん。

## 五、三唱三礼

一年生からの学令児全員が、男女性別の關係なく、一日一人づつが交替で、導師（司会者）となって中央に坐ります。導師となった子は、とてもうれしそうです。さすがに緊張して、声張り上げて役を勤めます。一年生の小さな女の子でも、全体の子がついて行く此の式の行事は、その子に大きな喜びと自信を持たせる事が出来ると信じています。佛教聖歌の佛の子供の伴奏は、オルガンをを用います。奏者は中学生の女子全員が交替で致します。職員も一諸におまゐりは致して居りますが、このおまゐりをする事は、子供達ですと子供中心の行事であると言う方法を用いたのであります。おまゐりがすむと其の場で日直当番の職員が中央に出て、全員に「お早よう御座居ます」と朝の挨拶をし

て、其の日の必要事項等の連絡から、注意事項等を伝え、職員の心構えとしては一目で全員との心の繋りを確め、子供の健康状態を把握する<sup>キョウバウ</sup>気配りに心掛けます。此の席で日曜日に私は「お参りは自分のためにする」と話し佛様はいつも守って下さる、人は始めから「利口」「馬鹿」はない。夫々の個性はあるが、だれでも一生懸命やれば立派であり利口である。馬鹿な真似<sup>マナミ</sup>をしたり、馬鹿と云われる様な事をする<sup>マナミ</sup>と馬鹿になると話します。そして念佛信者で愚者と云われた阿波介が唱えたお念佛の数を数える覚えとして珠数を二連持ってお念佛を唱えたと云う、今日浄土宗の日課念珠の始まりの「アイデア」を考え出した、法然様も「阿波介の珠数を二連持ちて」と人は一生懸命考えれば、立派な才覚智慧が沸くものであるとお誉め<sup>ホメ</sup>になった事を話したりして子供に自信を持たせます。保育園は通園の為に毎週月曜日を、お祈りの日と致しています。仏教音楽に合せてお参りの行事を致します。そして全員で「仏様、私達をお守り下さい、よい子になります、おねがいします」とお誓いを致します。

楽しいお参りの雰囲気<sup>フシイキ</sup>を出す様に努めてしています。

そして大慈悲の仏意を子供の意に植<sup>ウツ</sup>えたいと念願しています。

園長からその時々合ったお話をしています。

### 三、上履のない生活（一寸変っていますか）

光輝会の関係施設では上履とかスリッパ等は使っていません。事の始めは大臣視察からです、ケチケチ予算でやっています、色々と考え相談も重ねましたが一円でも余分なお金を使う事は堪えられません、無駄な様に思います、私達の生活様式習慣を考えるべきだと日頃考えて居ました。

此の時厚生大臣になられた草葉氏が錦を飾って、大臣として初視察に光輝寮を指名された知らせです、サア困ったどんな品質の物がよいか、何足必要か、此処で日頃実行していた事を見て貰うしかない、スリッパのいらぬ生活、奇麗に掃除をして清潔にしておりました、お客様には失礼かも知れませんが、此の際純日本式に上履は用いずの方針を申し上げよう、当日には大勢の偉い方々が一樣に来察されました、秘書の方か、それともどうゆう係の人だが解かりませんがツカツカと玄関を入って来られ、上り框にスリッ

パの並べてないのを見てすぐさま大声で「大臣にスリッパを」と申し渡されました。「光輝寮ではスリッパは使いません。」と答えました、丁度大臣が来られまして、ア、ヨシヨシと云って気軽に上られ応接室に案内致しました。すべての行事が終って帰られました。お見送してヤレヤレと一息つき万事終了です。光輝寮のやっている事の弁解のようですが、常日頃処処の施設とか方方<sup>ホウゴウ</sup>のお家へお伺いしても、玄関先に必ずと云ってよい程「スリッパ」が揃えてありますが床は砂からごみからで汚れています、帰られた後は散らかって散々です、此れを整頓し維持するのには大変な努力がいります。見苦しくない様新しいのを補給して行く経費を考えると大変だと思えます、お客様だけではない在寮の子供の事も考えなければなりません。子供の部屋でキチンと整頓されている処はそうありません。上履の整理に迄気を使わんとなれば大変です。これ程経費を使い努力して結果はと思うと、功少しではないでしょうか、どうせなら初めから無い方がよいと思いましたが、古来日本家庭では使っていたらうか、子供にはお茶の席へ行くのは使わんよ、時代劇の御殿にはスリッパはないと強がり云っ

ていますがどうか、光輝会では床は板廊下ではありませんが、全員が奇麗にコツコツとお掃除して心からお客様をお迎えする様心掛けています。官公所の方や見学に来られる方や、慰問に来て下さる方も初めの時は一寸ビックリして変ってるなあと思われるかも知れませんが、床も充分清掃され汚れありませんから逆に感心され賞めて下さいます。お寺の廊下は奇麗だと悦んで下さっています。保育園児も少しでもお掃除が汚ければ自分の足の裏が汚れ不潔に思います。慣れると返って清潔感が強くなって衛生的に良いと父母から感謝されて居ます。今の世相は和洋二重生活の混同でスリッパ以前の問題だと思います。

#### 四、 夫々の人に与えられた光あり（青色青光）

児童福祉法が施行され、最底基準の細則を設け微に入り細にわたり規定して、制度化されていますが此の（生活指導を行うに当って遵守すべき事項）を第70条に示されています。これは私共職員の基本的な心掛けですが仲々思う様に成功例は少のう御座居ます。

K君は小学校五年生で知能指数も底く、父子家庭児で長

欠等の問題をもって入所致しました。慣れて来ますと、云う事だとか自分の身廻りの事は出来ますが、本を読む事、書く事は出来ません。平假名を教えました。面白い話から入り一字一字を覚えさせました、意味が解って来ると興味を持ってよく覚えて呉れました、算数の計算も駄目でした「百引く七十は」出来ません、けれど百円でお菓子を七十円買いましたおつりは幾らですか、三十円と答えます、生活の智慧です、自分は損をしたくありません、すぐ覚える様になりました。欲があります自分が損をする事のない様真剣です。実際に体得させる様にして学習させました。むつかしい計算は出来ませんが日常生活には困らなくなりました。漢字のむつかしい読み書きの力はなくとも、見たり聞いたりして云う事も立派な一人前になりました。気の弱い子でしたが素直に中学三年生を卒業する事が出来ました。義務教育が終われば社会へ巣立って、自分の事は自分ですると云う生活があります。此の子と一緒に暮した五年間に何か特技でもあればと観察し、長短夫々を眺めて来ました、此の世に生を受けた限り何か其の人に生きるお与を頂きまして、此の子は手先の仕事が器用で、工作とか板を

削るとかの仕事なら向くと思いました。人一倍早くは出来ませんが十人並以上丁寧な仕事をするのです。児童相談所、職業安定所の先生達とも相談して、本人も希望致しましたので木工関係の就職先を尋ね、建具屋さんに住込まして頂きました。主人夫婦にも可愛がられ、段々仕事も覚え貯金も出来ました。丁寧な製品にお客様の信用を受けて段々成功して家庭を持つ迄になりました。お経の「青色青光」のお言葉の通り「K君にはK君の光りあり」お与えがあった。有難い事だ。此の世に生を受けその天分があったと悦びして頂いたのですが、お経様の「五濁惡世」のお言葉の世の中です。人は夫々に千差万別です。世間は多種多様です。

法然様のお言葉に「世も広く人も多ければ」と立派な人もたくさんおられますよと申されましたが逆にK君の場合の自分が一番可愛いで家庭は大事だと云う事は理解出来ませんが、家庭を持って妻子が出来ると其処に小欲に目が暗み、丁度高度成長期で家電メーカーが事業拡張で従業員募集をしました。夫婦相談して今迄の小人数の主家の建具職から同じ木工関係でも「ステレオボックスの大工場へ転職致しました。会社ではこの人を製品の仕上げ検査課に配置しま

した。仕事は丁寧で綺麗にする人ですから、会社では適材適所で満点ですが此の人の一番弱点は、人間関係です。会社の様な大きな組織を持った労働組合もあり、権利を主張して組織の中に組込まれて勤めを果す事には不向です、段々悪智慧がついて来ました。自分の権利、権利と主張する様になりました「青色に青光あり」のお経様のままであればよいのに「青色には赤色をつけ」になってしまいました。時には黄色には白と自分の都合のいい様に複雑にして丁度七色の虹の光を勝手に交ぜ合せて自分勝手な理窟をつけて居る様になりました。こんな時職場で荷物の移動作業の時転んで頭を打ちました。作業中の事故ですから当然労災保険適用です。病院通いをして治療していますが頭を打ったのですから医者も慎重です。休業保証がありますから生活の心配はありません。有難い事です、勿体ない事ですがつつくり治してから働けばよいと助言する人もあります。此の間に本人は労働基準監督署、労働組合事務所、労災病院、町の個人医院、市民病院の神経科、脳外科病院等を廻るのが日課となっていました。此の間に色々な人から、色々な知才を教えられ私共が驚く程労災の知才が豊富な専門家

になりました。頭を打ったのでから医者でも困ってしまうらしいです。そして本人はどうしたら得か、こうしたら損だと、自分の権利を最高度に發揮してすぐ損得で割切ってしまう。法然様のお言葉を頂いて「受け難き人身を受けて」の尊い人生だよ、有意義に家長としてもと訓しますが、先に申しました福祉法の生活指導の「健全な社会の一人」を思いましても義務を忘れ権利をのみ主張し、自分の色の光を見失って、多くの病院での患者同志の色光と組合同志の色光と岡目八目の社会の人の色光を受け入れて、もう私の所へは寄り付きません。事故だから仕方ない、病気だから仕方ないと五濁惡世の世相に流されています。

## 五、施設運営の夢

愛知県では施設従事者の研修会を定例の様にして毎月開催して、事業の向上発展の資とされました。会の始まる三十分位前に私はいつも出席して、会場が施設の場合は別に粗を探すのでなく自分の勉強の為に静かに施設を見て廻り気付いた事、参考になる事をお尋ねしたりして教えて貰いました。出席者同志の間でも時間があれば厚顔しい位お尋

ねしては、自分の不知を補い、善い事は実行させて頂いて施設の運営、子供の指導の善知識とさせて頂きました。お話を承る方々の中で「聖園天使園」と云う名古屋市緑区鳴海町に養護施設があります。聖園さんはとても建物も設備も職員も経済的にもとても駆出しの私の施設から見れば、羨しい事ばかりでしたから、どうしてもそうなっているかとその仕組をお尋ね致しました。いつも二人連にて出席され、二人で気易く話して下さいます、此の聖園（みその）さんは秋田県に本部があり、此処では保母養成の学校迄持っておられまして、修道尼として修行しがてら保母の資格を取って各地の教会の附設福祉施設に勤めると云う、尼僧と保母と、信仰生活と社会生活の両面で尊い人生を生き抜かれるのであります。最底基準により有資格保母が得難く、無資格の代用保母の方が多い小施設では、いつも監査で不適格施設として叱られる苦しみを味っている私には、羨しい限りです。浄土宗でも保母養成の短大を持っている学校も在家の子女が中心である為、就職も夫々の関係あって地方迄は来て貰えませんでした。熱心な尼僧さんが一生懸命無資格から県の国家試験に合格して田舎の保育園に勤めて居ら



れるが園児から「頭の丸の先生はいや」と云われた事も聞きました。聖園<sup>ミソノ</sup>さんでは直接処遇には多くの助手を使い決してトラブルはありませんでした。何も手を繋ぐばかりが直接ではなく、被服から給食迄々と仕事はあるわけです。尼衆校なんかが比丘尼養成のみでなく沙弥尼養成にも母母養成等社会福祉に着目されたらと、「ジスター」から話を聞き乍ら思いました。聖園さんは秋田県には「老人ホーム」も持っておられました。若い間は神に仕えながら一生懸命奉仕の気持ちで働き乍ら年老えれば、同じ信仰を持った人々の老人ホームで迎えられ静かに余生を信仰生活で送れると云う此のシステムに安心して暮せます。三河地方は尼僧さんはたくさん信仰生活を送っておられます。或る老尼が老人ホームに入所され、今迄は特別と思っていた在家の人からは奇異に感じられ「愚痴<sup>グチ</sup>ツタリ、呆<sup>＊</sup>（惚）ケタリ」するのを見「ナンダ尼僧さんで佛様に仕えた人だからもつと立派な人かと思った」と陰口を云われたのを聞きました。尼僧さんでも凡夫です。同じ人間に変りはありません、老病の二苦を受けているのです。病気の為に惚<sup>＊</sup>けたり、愚痴<sup>＊</sup>たりする人もあります。聖園さんの様に秋田へ行って同信

同行の人と一緒に安心して老後を送れるシステムを羨<sup>うらや</sup>ましく思いました。法然様のお膝元<sup>ヒザノヘ</sup>にて四六時中念佛唱名の雰囲気の中に起き臥し出来る様な老人ホームが出来て、老尼の法悦の姿を想像致し夢よ実現せよと叫びます。善い事は真似しても悪い事ではないと思います。恥かしい事でもありません。宗門関係者も前向きで法然様のおさとしの現当二世の念佛の生き方で、無理のない気兼ねのない念佛者ばかりの理想的な施設が出来ればと念願<sup>ネンガン</sup>していますが無理でしうか。

### 結びの言葉

三河は神君と云われた家康公が、法然様の念佛の教えに浴して「人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くが如し、急ぐべからず」の格言を私は実践出来ず、善導様の警策<sup>キョウサク</sup>示された「人間惣々として」の通り追いつけ、追い越せて暮して参りました弱い者です。反省<sup>ふりかえり</sup>して見ますと、汗顔の極みです。せめて「めぐり合い」を喜び縁ある芽を育てたいと願っています、ふれ合いを大切にします。

終